

22 チンチヨン伯爵夫人とキナ渡来

伝説

泉 彪之助

新大陸からヨーロッパへキナ樹皮の渡来について、有名な説（以下キナ伝説）がある。スペインのチンチヨン（Cinchon）伯爵夫人が、夫が副王として在勤中のペルーでマラリアにかかった。これがキナ樹皮で完治したので、伯爵夫人はヨーロッパへキナ樹皮を紹介したという。この説によつてリンネは、キナ樹をシンコーナ（Cinchona）と命名した。

現在はこの説は伝説とされ、史実としては否定されているが、チンチヨンが伝説の舞台となったことは事実である。演者はこの説に興味をもち、チンチヨンを訪れ、関連文献を調べて多少の知見を得たので報告する。

コロンブスは、西方航路出帆に先立ち、新大陸に到達したときの権益について、カトリック両王との間にサン

タ・フエの協約を結んだ。しかしこの約束はほとんど実行されず、新大陸はスペイン王国直轄植民地として経営された。一方、スペインとポルトガルの間のトルデシリヤス条約により、ブラジルがポルトガルの勢力範囲となった。北アメリカ南部と、ブラジルを除く南アメリカの主要部分を占めたスペインの新大陸植民地に、国王代理職として置かれたのが副王で、北はヌエバ・エスパニア副王が、パナマ以南はペルー副王が統治し、ペルー副王庁はリマにあった。

新大陸からタバコ、馬鈴薯、トマトなどの栽培作物、グアヤック、コカ、吐根などの薬物がヨーロッパにもたらされた。キナの渡来は、一七世紀初頭に行われたとされる。

チンチヨンはスペイン中央部、マドリッドの南約五〇キロにあり、現在の人口は約四千人を数える。

第四代チンチヨン伯ルイス・ヘロニモ・フェルナンデス（ペルー副王在職一六二八年—一六三九年）の夫人が、キナ伝説の主人公である。はじめ彼の最初の夫人アナ・デオソーリオの名があげられたが、アナは夫の副王就任前

に死去しているので、現在は二番目の夫人フランシスカ・エンリケス・デ・リベラが伝説の主人公とされている。

ウエルカム医事博物館のハギスは、この伝説を検討し、史実でないことを示した。その論拠は、前述のようにアナ・デ・オソリーオは夫のペルー赴任前に死去していること、フランシスカ・エンリケスも、帰国するとき新大陸出発前に死去していること、ヨーロッパの学界にキナを紹介したとされる伯爵の侍医は生涯新大陸にあり、ヨーロッパに帰らなかったこと、ペルー副王としてのチヨン伯爵の公用日記に、夫人のマリアア罹患を思わせる記事がないことなどである。スペインの医史学者ゲラは、ハギスの業績を評価しながらも、伯爵の侍医がヨーロッパに帰らず、キナの渡来に貢献しなかったというのはあまりであるとしている。

スペインの高名な医史学者ライン・エントラルゴも、チヨン伯爵夫人の関与は伝説であり、キナはセビリア経由でヨーロッパにもたらされ、イエズス会士によって普及したとのべた。イエズス会士の関与については、

ここでは省略する。

チンチヨンの名前のおこりに、Cincioと呼ばれた、ラテン語のCircumから来た、Cincumと呼ばれた、と三つの説がある。ハギスがキナ伝説の基本資料としているセバチアノ・パドのラテン文では、チンチヨンがCinchonと書かれており、シンコーナの綴りはこれから来たのであろう。オックスフォード英語大辞典は、cinchonaはあまりでchinchonaと訂正すべきだが、歴史的に定着しているのでむしろかしこいとしている。

(福井県立大学看護短期大学部名誉教授)